

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 音読げきをしよう 「お手紙」

2 指導の考え方

子どもの実態

本学級の子どもたちは、2学年の物語文教材「ふきのとう」や「スイミー」の学習で、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら場面の様子をくわしく読む学習をしてきた。登場人物がしたこと、線を引いたり、そこから分かる人物の様子や気持ちを考えたり書いたりすることを経験してきている。その中で、文章の中の大事な言葉や文を見つけたり書きぬいたり、その内容と自分の経験を結びつけて、自分の思いや考えを書いたり話したりすることができるようになってきている。

交流については、話し手の方を向いて聴いたり、聞き手の方を向いて話したりすることはできるようになっており、「ぼくは...と思います。」「私は...と思います。」という話し方は身につけているが、友だちが話したことについて「...さんにつけくわえて...」「...さんと少しにいて...」など、とつけ加えをしたり、似ているところや違うところを比べながら聴いたりすることに関しては、意欲はあるのだが、できている子はまだ多いとはいえない。

教材の特質

本教材は、一度もお手紙をもらったことがないがまくんが、悲しい気分でお手紙を待っているのを見て、なんとかしたいと思い行動するかえるくと、かえるくんのお手紙によって自分のことを思ってくれている親友がいたことに気づき、喜ぶがまくんの姿が描かれている。友だちと関わることの喜びを感じられるようになる2年生の子どもたちにとって、共感する部分がたくさんある教材である。そのため、子どもたちはかえるくんやがまくんに同化しながら、登場人物の行動を読み取ることができると考える。

文章構成の特質としては、まず主人公が、がまくんとかえるくんの2人で設定されていることが挙げられる。次に、全体が5つの場面で構成されていることである。それぞれの場面に対応した挿し絵も載せられているので、挿し絵と言葉をつないであらすじを捉えられる教材であると考えられる。

文章表現の特質としては、一文が短く、2年生の子どもたちにわかりやすい。また、がまくん・かえるくんの短い会話文が多い。そのため、音読や動作化を通して、場面の様子や登場人物の行動のわけを、想像を広げながら読むことができると考える。場面によっては、会話文で話が続くため、挿し絵を効果的に活用して、登場人物の行動の順序を確かめながら、あらすじを捉える必要がある。

指導にあたって

(1) 本単元における「自分の考え」とは

がまくん、かえるくんの様子や気持ちについて、がまくん、かえるくんの行動がわかる叙述をもとに、挿し絵と叙述をつないだり、自分の経験と比べたりして想像を広げた読みを表現した考えである。

(2) 子どもたちの問題意識をもたせるために

「読み通しの目をつくる」段階では、まず題名から「『お』がついているから大切にしているのかな。」「誰かが誰かにお手紙を出すお話なのかな。」といった疑問を引き出す。次に、「ふたりともかなしい気分...」という文をもとに、手紙がもらえなくてかなしいがまくん、そんながまくんを見てかなしいかえるくんについて想像をふくらませ、「お手紙はとどくのかな。」「がまくんはお手紙をもらえるのかな。」という子どもの疑問を、「かなしい気分ではげんかんの前にこしをおろしているがまくんとかえるくんが、これからどうなるお話だろう。」という読み通しの目にまとめていく。

「学習計画」の段階では、「読み通しの目の答えを書く」段階で書きまとめたあらすじをもとに、「よくわからないこと」や「もっと知りたいこと」を出し合う。子どもたちから出た「疑問」をもとに、各段落の読み確かめたいことを決めていくようにする。

(3) 自分の考えをもたせるために

「読み確かめ」の段階では、がまくんやかえるくんの行動の様子やそこにこめられている気持ちを、挿し絵と叙述をつないだり、自分の経験と結びつけたり、場面と場面をつないだりすることで、想像を広げながら読むことができるようにしたい。そこでつくられた「自分の考え」を、交流を通して広げたり、より深めたりしていく。

「読みのまとめ」の段階では、題名「お手紙」の果たす役割を考えたり、「読み確かめ」で詳しくなったことをお家の人へ伝えるという視点を持たせてまとめを書いたりする。

(4) 交流のために

交流では、友だちの発表を聞くときは「誰の意見と似ているか考えながら聞いてね。」などと比べながら聞くように視点をあたえる。また、意見をいくつか出したあとで「この中で少し違う意見がありませんか。」「今の　　さんの意見は、新しい意見だったかな。」などと問い返すことで、クラスで出し合った意見の共通点や相違点を自分たちで見つけられるようにしていきたい。発表時は、「　　君と似ていて～」「　　さんと違って～」等友だちの考えと自分の考えを比べたりつなげたりして発言するようにしていきたい。そのために、具体的な発表の言葉を子どもの発言をもとにつくり、書いたものを掲示して、それを使いながら交流できるように指導していく。また、教師が子どもたちの発表を分類・整理して板書することで、より読みが広がったり深まったりする交流にしていきたい。

交流では、書いたものをグループで読み合ったり、感想を伝え合ったりすることで、同じ作品でもいろいろな考え方があることに気づいて、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしたい。

3 目標

がまくんのために行動するかえるくんや、かえるくんという「親友」がいることに気づいたがまくんの気持ちを、登場人物のしたことを中心に、想像を広げて読むことができる。

似た言葉とくらべて読む読み方、会話文を読む読み方を習得し、場面と場面をつないで読む読み方、自分の経験とつないで読む読み方を活用することができる。

がまくんやかえるくんの行動を中心に、そのときの様子・気持ちについて自分なりの考えを持ち、教師とともに意見を分類・整理したり友達の意見に付け加えをしたりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

4 学習計画

| | 主な学習活動と内容 | 指導上の留意点 問題意識をもたせるため・形成のため 交流のため 交流 交流 その他 |
|-----------------------|--|---|
| 読み通しの目 1 / 15 | <p>1 単元名とリード文から学習の構えをつくる。</p> <p>2 読み通しの目をつくる。</p> <p>(1) 題名「お手紙」からわかることや疑問について話し合う。 わかること・疑問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お」がついてるから大切にしているみたい。 ・誰かが誰かにお手紙を出すお話なのかな。 <p>(2) ぼう頭を読み、わかることや思ったことを話し合う。 わかること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんはお手紙を一度ももらったことがなく、毎日お手紙を待っている。 ・それを知ったかえるくんが、一緒にかなしい気分になった。 <p>(3) 題名とぼう頭をつないで、読み通しの目をつくる。</p> <p>読み通しの目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>かなしい気分でげんかんの前にこしをおろしていたかえるくんとがまくんが、これからどうなるお話だろう。</p> </div> | <p>単元名を元に音読劇を誰に見てほしいかを子どもに問いかけ、音読劇をする意欲を持たせ、音読劇をするには、主人公のしたことを中心に、場面の様子や登場人物の気持ちを詳しく読むことが不可欠であるという見通しをもって学習にのぞめるようにする。</p> <p>自分の生活とつなげて、お手紙を今までにもらったり、あげたりした経験、そのときの気持ちを想起し、題名「お手紙」から疑問を考えられるようにする。</p> <p>一枚目の挿し絵を提示し、「どっちがかえるくん、がまくんかな。」と問いかけることで、二人のしたことがわかる叙述とつないで、それぞれの様子を考えさせた上で二枚目の挿し絵を提示し、かえるくんはお手紙がほしいわけではないのに、なぜかえるくんまでかなしいのかを、考えさせる。</p> <p>友だちの考えと比べて発表している子を認め、つなげて発表しようという意欲を持てるようにする。 交流</p> <p>にている考えに気づいたり、友だちの考えに付け加えたりできるように、聞くときに視点をあたえるようにする。 交流</p> <p>がまくんは、お手紙をもらえるのかな、かえるくんはこのあとどうするのか、といった疑問を持たせ、お話がこれからどうなるかという展開に興味を持って学習できるようにする。</p> |
| 音読 2 / 15 | <p>1 全文を読み、音読の練習をする。</p> <p>(1) 新出漢字の練習をする。</p> <p>(2) はきはきすらすら読むことができるように練習をする。</p> <p>2 挿し絵を手がかりに、場面わけをする。</p> | <p>口形、「、」や「。」、姿勢に気をつけて音読できるようにする。</p> <p>挿し絵と叙述をつなぎながら、場面を分けられるようにする。</p> |
| 読み通しの目の答え 3・4 / 15 | <p>1 読み通しの目の答えを書きまとめる。</p> <p>(1) 全文を音読する。</p> <p>(2) かえるくんのしたことがわかるところに線を引く。</p> <p>(3) 場面ごとに、読み通しの目の答えを書きまとめる。</p> | <p>「～は」「～が」に着目するように助言して、したことがわかる文を見つけられるようにする。</p> <p>なかなか書くことができない子どもには、机間指導で個別に支援する。</p> <p>あらすじのたからを使うことができるようにするために、カードや教室掲示に着目させながらまとめ、有用感を持てるようにする。</p> |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p style="text-align: center;">予想される読み通しの目の答え</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>はじめにかえるくんは、家へ帰って手紙を書いた。そしてお手紙をかたつむりくんにたのんで、がまくんの家へもどった。</p> <p>つぎにがまくんが、お昼ねをしていたので、かえるくんはまどからゆうびんうけを見たり、のぞいたりした。</p> <p>そしてかえるくんはがまくんにお手紙を出したことを言った。</p> <p>それからふたりはともしあわせなきもちでげんかんにすわってお手紙がくるのをまっただ。</p> <p>四日たってがまくんがお手紙をうけとり、とてもよろこんだお話。</p> </div> | <p>挿し絵やかえるくんがしたことを中心にあらすじをとらえていくのだが、がまくんの挿し絵がある場面もあるので、必要に応じて、がまくんがしたことがわかる文も読み通しの目の答えに入れるように助言する。</p> <p>このままでは、まだお話がくわしくはわからないことをおさえ、学習計画をたてる意欲へとつなげる。</p> |
| <p>学習計画 5 / 15</p> | <p>1 学習計画をたてる。 (1) 全文を音読する。 (2) よくわからないこと、もっと知りたいことをカードに書く。 予想される読み確かめたいこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんは、どんなふうにお手紙を書いたのかな。 どうしてかえるくんは、かたつむりくんにお手紙をたのんだのかな。 かえるくんは、どうしてまどの外を見たりのぞいたりしたのかな。 かえるくんはどうして自分がお手紙を出したことを、がまくんに言ってしまったのかな。 お手紙がとどいてないのに、どうしてしあわせな気持ちになったのかな。 かえるくんは、お手紙がとどいたときどうしたのかな。</p> </div> <p>(3) 読み確かめたいことを発表する。</p> | <p>学習の初めに、前時でまとめた読み通しの目の答えを板書に位置づけておき、かえるくんの行動を中心にもっとくわしく読んでいきたいところ、よくわからないところを発表できるようにする。</p> <p>事前にどんな疑問ができるか予想しておき、読み確かめていくときに重要な疑問が出ない場合は子どもに投げかけながら、疑問を持つことができるようにする。</p> |
| <p>読み確かめ 6 / 15</p> | <p>1 本時のめあてを確かめる。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんが家へ帰って手紙を書いて、かたつむりくんに手紙をわたしてくれるようにたのんだお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 かえるくんの様子や気持ちを話し合う。 (1) 大いそぎで家に帰ってお手紙を書いて、家から飛び出すかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> | <p>学習計画でつくった疑問をもとに、くわしく読み確かめていくことを確かめる。</p> <p>口形、「」や「。」、姿勢に気をつけて音読できるようにする。</p> <p>かえるくんの行動を表す短い文が続いていることに着目させて、その読み方や動きを工夫して音読することで、かえるくんが急いでいる様子を読み取ることができるようにする。</p> <p>にた言葉と比べて読む読み方を使って「とび出しました」と「出ました」を比べることで、かえるくんのいそいでいる様子を読むことができるようにする。</p> |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p>(2) お手紙をかたつむりくんに頼んだときのかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>4 学習のまとめをする。 (1) 使った読み方を振り返る。 (2) 「今日の学習で」を書く。</p> | <p>かえるくんがかたつむりくんにお手紙をたのんでいる挿し絵を提示し、「かえるくんはかたつむりくんになんと言ってお手紙をわたしているのかな。」と問いかけることで挿し絵と言葉をつないで様子を読み取ることができるようにする。</p> <p>かえるくんがかたつむりくんにお手紙をたのんだ、行動のわけを話し合うときに、板書で考え方の違いを分類・整理したり、つなげて発表しやすいように発問を工夫したりすることで、急いでいるかえるくんの様子をつないで、がまくんをなんとか喜ばせたいかえるくんの気持ちについて、友だちの考え方を受け止め、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 交流</p> <p>相手意識を持って書くことができるようにお家の人へのお手紙という形でまとめる。</p> |
| <p>読み確かめ 7 / 15</p> | <p>1 本時のめあてを確かめる。 めあて かえるくんがまどから外を見たりのぞいたりしたお話をくわしく読もう。</p> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 がまくんやかえるくんの様子や気持ちを話し合う。 (1) まどから見たりのぞいたりしたときのかえるくんの様子や気持ちを話し合う。 まどからゆうびんうけを見たかえるくんの様子や気持ち まどからのぞいたかえるくんの様子や気持ち</p> <p>(2) なぜまどから見たり、2回ものぞいたりしたのか考える。 ・ がまくんがあきらめているから、励ましたい。 ・ もうすぐ手紙が届くから、届くところをがまくんが見て喜ぶところを見たい。 ・ かたつむりくんが「すぐやるぜ。」と言ったのにまだこない。</p> <p>4 学習のまとめをする。 (1) 使った読み方を振り返る。 (2) 「今日の学習で」を書く。</p> | <p>学習計画でつくった疑問をもとに、くわしく読み確かめていくことを確かめる。</p> <p>教師ががまくん、子どもがかえるくんの会話を読む役割音読をすることを通して、がまくんの落ち込んでいく様子や、お手紙を待つかえるくんの様子を捉えることができるようにする。</p> <p>挿し絵と言葉をつないで読む読み方をつかってまどから郵便受けを見たかえるくんの様子を捉えさせたいうえで、「のぞきました」というくり返しに着目させ、動作化をし、何度も窓から外をみるほどお手紙を待ち遠しく思っているかえるくんの気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>かえるくんの行動のわけを話し合うときに、板書で考え方の違いを分類・整理したり、つなげて発表しやすいように発問を工夫したりすることで、何度も外を見るかえるくんの様子をつないで、がまくんのことを考えているかえるくん気持ちについて、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 交流</p> <p>相手意識を持って書くことができるようにお家の人へのお手紙という形でまとめる。</p> |

| | | |
|---------------------------------|---|---|
| <p>読み確かめ</p> <p>8 / 15 (本時)</p> | <p>1 本時のめあてを確かめる。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かえるくんががまくんにお手紙を出したことを言ったお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 がまくんやかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1) お手紙を出したことを言ったときのかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(2) かえるくんががまくんにお手紙を出したことや、お手紙の中身を知ったときのがまくんの様子や気持ちを話し合う。 お手紙の何が良かったのかを話し合う。</p> <p>かえるくんががまくんのことを「親友」と思い行動していることを、これまでのかえるくんの言動とつないで考え話し合う。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 使った読み方を振り返る。</p> <p>(2) 「今日の学習で」を書く。</p> | <p>学習計画でつくった疑問をもとに、くわしく読み確かめていくことを確かめる。</p> <p>口形、「,」や「。」, 姿勢に気をつけて音読できるようにする。</p> <p>場面と場面をつないで読む読み方をつかって、前の場面のまどから見たりのぞいたりしながらお手紙を待ち、がまくんをはげますかえるくんの様子とつないで、お手紙が来ないことに落ちこんでいるがまくんをよるこばせたいという気持ちから、お手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>手紙の内容に着目して、かえるくんが「親友であることを...」「きみの親友」という言葉がいいと思ったことを読み取ることができるようにする。</p> <p>かえるくんががまくんを思い行動したことを考えるときに板書で考えの順序を分類・整理したり、前の場面の叙述とつないで発表させたりすることで、「親友」に対する見方や考え方を広げることができるようにする。</p> <p>「ああ。」をがまくんになりきって音読することを通して、言葉にならないほどうれしがまくんの気持ちを想像を広げながら読み取ることができるようにする。</p> <p>相手意識を持って書くことができるようにお家の人へのお手紙という形でまとめる。</p> |
| <p>読み確かめ</p> <p>9 / 15</p> | <p>1 本時のめあてを確かめる。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かえるくんとがまくんが、ともしあわせな気持ちでげんかんにすわってお手紙がくるのをまったお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 本時場面の音読をする。</p> | <p>学習計画でつくった疑問をもとに、くわしく読み確かめていくことを確かめる。</p> <p>口形、「,」や「。」, 姿勢に気をつけて音読できるようにする。</p> |

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| | <p>3 がまくんやかえるくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1) しあわせな気持ちでげんかんにすわっていたときのふたりの様子や気持ちを話し合う。 がまくんのしあわせな気持ちについて話し合う。 かえるくんのしあわせな気持ちについて話し合う。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 使った読み方を振り返る。 (2) 「今日の学習で」を書く。</p> | <p>挿し絵を提示し、かえるくんとがまくんの表情や手などに着目させて、二人のしあわせそうな様子を読み取らせる。</p> <p>場面と場面をつないで読む読み方をつけて、かえるくんという親友がいるしあわせを感じているがまくんと、がまくんがしあわせになったことが自分のしあわせであるかえるくんの気持ちを読みとらせる。</p> <p>相手意識を持って書くことができるようにお家の人へのお手紙という形でまとめる。</p> |
| <p>読み確かめ</p> <p>10 / 15</p> | <p>1 本時のめあてを確かめる。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>四日たって、かたつむりくんがかえるくんからのお手紙をがまくんにわたしたお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 お手紙が届いたときのかえるくんやがまくん、かたつむりくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 使った読み方を振り返る。 (2) 「今日の学習で」を書く。</p> | <p>学習計画でつくった疑問をもとに、くわしく読み確かめていくことを確かめる。</p> <p>口形、「」や「。」、姿勢に気をつけて音読できるようにする。</p> <p>お手紙が届けたときのかたつむりくん、がまくんの様子を叙述を元に読み取り、それを見ているかえるくんの気持ちを想像を広げながら考えることができるようにする。</p> <p>相手意識を持って書くことができるようにお家の人へのお手紙という形でまとめる。</p> |
| <p>まとめ</p> <p>11 / 15</p> | <p>1 読みのまとめをする。</p> <p>(1) 使った読み方を振り返る。 (2) かえるくん、がまくんのどちらかにお手紙を書く。</p> | <p>自分で選んだ人物に当てた手紙を書くことで、物語の中で自分が感じたことやおもしろかったことを考え、内容のまとめとして感想を書くことができるようにする。</p> |
| <p>言語活動</p> <p>12 / 15</p> | <p>1 音読劇の練習をする。</p> <p>(1) グループごとに役割を決め、読み確かめたことをもとに読み方や動きの工夫を話し合う。 (2) グループで実際に読み合いながら、声の大きさや動きの工夫を話し合う。</p> <p>2 音読劇を発表する。</p> <p>(1) グループごとに発表をする。 (2) ほかのグループの音読を聞いた感想を伝え合う。</p> | <p>音読の工夫の仕方を具体的に指導し、様子が表れるような動き、気持ちが表れるような音読の仕方を考えられるようにする。</p> <p>他のグループの発表を聞くときに評価の視点を与えたり、感想を言わせたりすることで、他のグループの発表のいいところを見つけられるようにする。</p> <p>色々なグループの音読劇を見たり、感想を聞いたりすることを通して、同じ場面でも色々な表現の仕方があることに気づいたり、考え方も様々であるということに気づいたりできるようにする。(交流)</p> |

| | | |
|---|--|---|
| <p>読み 広げ</p> <p>14 / 15</p> | <p>1 がまくんとかえるくんが出てくるほかのお話を読む。</p> <p>(1) 本の紹介を聞く。</p> <p>(2) 読んでみたいお話を読んで、気に入ったところを書きまとめる。</p> | <p>がまくんとかえるくんシリーズがたくさんあるということを知らせ、興味を持つことができるようにする。</p> <p>「お手紙」では、かえるくんががまくんのことを考えて行動するお話だったが、自分が読むお話ではどうなのかという視点を持って読むことで、かえるくんとがまくんが「親友」として過ごしていることをとらえられるようにする。</p> |
| <p>書く</p> <p>15 / 15</p> | <p>1 受け取った人がうれしくなる手紙を書く。</p> | <p>がまくんが手紙をもらってうれしくなっていたことを想起させ、自分もかえるくんのように相手がうれしくなるような手紙を書こうという意欲を持つことができるようにする。</p> |

5 本時 読み確かめ 平成24年 月 日() 2年 組教室にて

6 目標

がまくんやかえるくんの行動を中心に、場面の様子やがまくんの気持ちのうつりかわり、かえるくんのがまくんに対する優しい気持ちを想像を広げながら読み取ることができる。

挿し絵と言葉をつないで読む読み方、場面と場面をつないで読む読み方を習得・活用することができる。

かえるくん、がまくんの行動を中心に、そのときの様子・気持ちについて自分なりの考えを持ち、教師とともに考えを分類・整理し、友だちの考えを聴き合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

7 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは手紙を待つことをあきらめているがまくんの様子や、「すぐやるぜ」と言ったにもかかわらずなかなか来ないかたつむりくんの様子をつないで、窓からゆうびんうけを見たりぞいたりしながらがまくんを励ますかえるくんの様子や気持ちを読み確かめている。本時は、自分からお手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの様子や、「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの様子や気持ちを読み確かめる時間である。

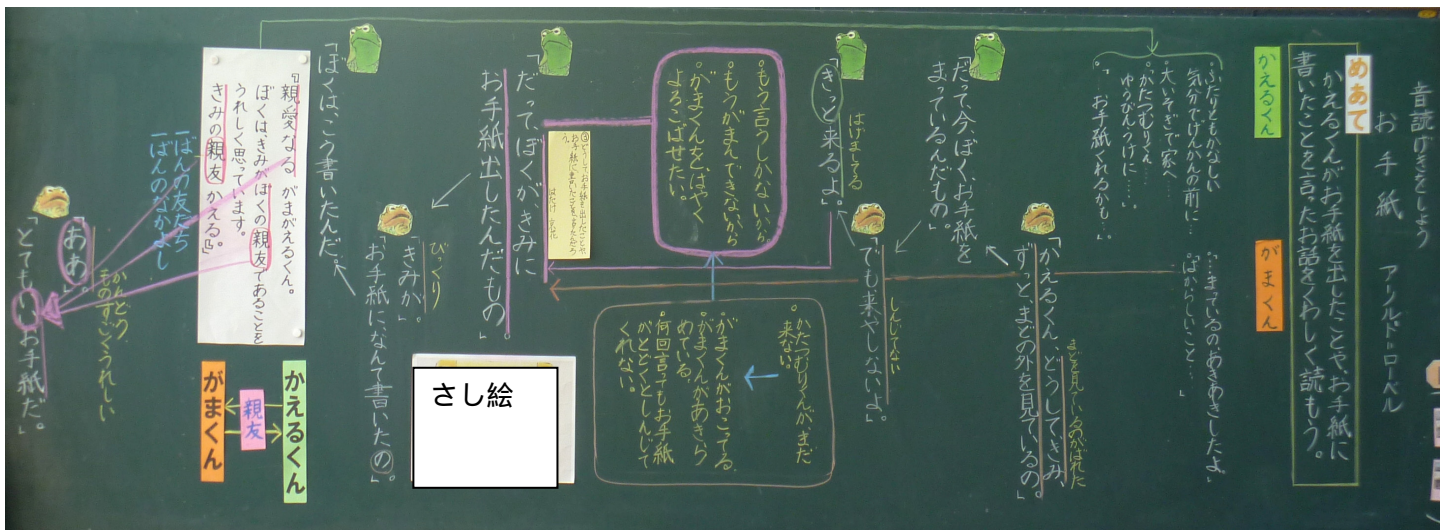
本時指導に当たっては、まず、子どもたちが本時で読み確かめたいこととして挙げていた『疑問』を板書に位置づけることで、学習計画とのつながりを意識して読み確かめられるようにする。音読の後、まずかえるくんがお手紙を書いたことを教えた理由について話し合う。その際、自分の考えが前に発表した誰の考えに似ているかなどを考えて発表できるようにしたい。似ている考えをつないで発表しやすいように、列指名を効果的に取り入れるなど、指名の仕方の工夫をする。出し合い そして、前時のがまくんやかえるくんの様子をつないで、どうしたらいいか迷っている考え、もう言うしかない・よろこばせるために言おうなど、お手紙を出したことを言うことを決意している考えなど、考えの根拠の違いを板書で分類・整理して、色々な考えがあることを捉えられるようにする。分類・整理 それらの考えには順序性があることを矢印をつけて板書に位置づけることで、色々な考えがつながっていることを捉えさせ、本時のかえるくんの行動も、がまくんのことを思う気持ちがあったことを捉えられるようにしたい。深める

次に、がまくんが「とてもいいお手紙だ。」と言ったわけについて話し合う。まず、がまくんが、「とてもいいお手紙だ。」と言った文から、お手紙の何がいいのかを考えさせる。そして「親友」という言葉に着目させ、親友とは何か問いかけ、一番の友だちなどの言葉でまとめる。その際、前述のような指名の仕方の工夫を行う。出し合い そして、考えや根拠の違いを板書で分類・整理する。分類・整理 その上で、かえるくんががまくんのことを「親友」だと思って行動していることはなかったかを考える問い返しをする。その上でもう一度手紙にある「親友」という言葉に着目させ、そんな手紙をもらったがまくんのよろこびを捉えられるようにしたい。深める

読み確かめていくときに、効果的に会話文の音読をすることで、登場人物と同化させ、様子や気持ちを想像を広げながら読むことができるようにする。

一時間のまとめでは、相手意識を持って書くことができるように、「お家の人への手紙」という形で、本時でくわしくなったがまくんやかえるくんの様子や気持ちを付け加えた「今日の学習で」を書くことができるように指導していく。その際、大切なところを色チョークで囲んだり、線をつないだりするなどして、子どもたちが本時で学んだことが捉えやすい構造的な板書にしていきたい。

8 板書計画



9 本時

| <p>主な学習活動と内容</p> | <p>指導上の留意点 問題意識をもたせるため・形成のため 交流のため 交流 交流 その他</p> |
|---|--|
| <p>1 前時を想起し、本時に読み確かめることを確認する。 (1) 前時を想起する。 (2) 本時のめあてを確認する。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>かえるくんががまくんにお手紙を出したことを言ったお話をくわしく読もう</p> </div> <p>(3) 学習計画で出した『疑問』をもとに、本時に読み確かめることを確認する。</p> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 お手紙のことを話したかえるくんと、それを聞いたがまくんの気持ちを話し合う。 (1) かえるくんがお手紙を出したことを言ったわけについて話し合う。 プリントに考えを書き込む。</p> <p> クラスで考えを出し合い、友だちの考えを聞いて、色々な考えを受け止め、自分の考えを深める。 がまくんが、お手紙がくることをまつのをあきらめてしまっているから。 がまくんが何度言ってもお手紙がくることを信じてくれないから。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p> もう、がまんできない がまくんを早くよこばせたい。</p> <p>(2) かえるくんの行動とつないで、がまくんが「ああ。」「いいお手紙だ。」と言ったわけについて話し合う。 お手紙のどこがいいと言っているのかを話し合い、親友の意味を考える。 一番の友だち 特別な友だち かえるくんが、がまくんのことを「親友」だと思って行動していることはなかったか考え、話し合う。 大いそぎで帰って、お手紙を書いた。 お手紙が届くのを待って、ゆうびんうけを見たりのぞいたりした。 がまくんがあきらめかけていても、何度もはげましていた。</p> <p>4 学習のまとめをする。 (1) お家の人へ伝えるお手紙として、「今日の学習で」を書く。 (2) 次時の学習で読み確かめることを確認する。</p> | <p>前時では、まどから見たりのぞいたりするかえるくんの様子や気持ちをくわしく読んだことを確かめる。</p> <p>学習計画でつくった疑問を、黒板に位置づけながら、本時でくわしく読み確かめていくことを確認する。</p> <p>姿勢・口形に気をつけて読むことができるように声かけをする。 音読を効果的に取り入れ、想像を広げながら様子や気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>プリントに自分の考えを書くことで、どの子も考えを持つことができるようにする。 指名するときに、似ている考えをつないで発表しやすいように、指名の工夫をする。 出し合い かえるくんの行動のわけを話し合うときに、子どもたちの考えを根拠の違いを元に分けて板書する。 分類・整理 問い返しをしたり、考えの順序性を整理したりすることで、前の場面のまどから見たりのぞいたりするかえるくんの様子や、お手紙をまつのにあきあきしているがまくんの様子が、がまくんを喜ばせたいという思いにつながり、思わず手紙を出したことを言ってしまったということをとらえ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 深める 親愛なる、親友の意味を確かめて、かえるくんは、お互いに親友だと言ってくれていることを捉えられるようにする。</p> <p>指名するときに、似ている考えをつないで発表しやすいように、指名の工夫をする。 出し合い 前の場面とつないでいることがわかるように板書を工夫し、子どもの出した考えを整理する。 分類・整理 前時までのかえるくんの行動の中で、親友といえる行動がなかったかを考えさせる問い返しをすることでかえるくんががまくんのことを親友と思っている根拠を捉え、「親友」に対する自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 深める 板書の大切な言葉を色チョークで囲み、線をつないで、くわしくなったお話をまとめられるようにする。</p> |

